

氏系高橋氏の名跡を継いだものらしい。なお相良氏系高橋氏は「長劍梅鉢」「丸に三柏」を家紋にする。

筑前高橋氏には藤原北家秀郷流、下河辺庄司行義の孫野本左衛門尉時員の後というものがある。家紋に「丸に三柏」「竹笠」を用いるから、相良氏系高橋氏と何らかの關係があるのではなからうか。また相良氏と同族である狩野氏族に遠江国城飼郡高橋郷に発祥する高橋氏があるが、この氏は「一蓋笠」「丸に九枚笹」を家紋にする。

清和源氏頼光流という高橋氏の系譜は未祥だが、家紋は「丸に釘抜」を用い、また橘氏族の古曾部入道永愷の裔平太能光も高橋氏を称したが、この系統は家紋に「劍酢漿草かたばらみ」を用いるという。

天保末年の「御家中席帳」によると、旧佐伯藩士にも高橋氏が二家ある。御取次（上士）の高橋貞と御中小姓（中士）の高橋曾兵衛である。

それにしても佐伯地方の高橋氏はどのような系統に属するのであろうか。筑前・筑後・肥後・伊豫の各地にはそれぞれ高橋という地名があり、いずれも高橋氏の発祥地になっている。系譜（系図）や伝承・家紋などを手がかりに調べてみたいものである。

（つづく）

#### 表紙解説

### 潜龍塔について

この五輪塔には「潜龍塔」と刻銘があるのみで、他の文字は何もない。「潜龍」とは

・水中や谷間にいて、まだ天にのぼらない竜のこと、転じて、世に出ないで隠れている聖人、まだ活動をする機会を得ない英雄をいう（広漢和辞典）

・（日本国語大辞典も右にほぼ同じ、引用例文が多い）池や淵にひそんでいて、まだ天に昇らぬ竜の意、暫く帝位に登らず、これを避けている人、また、まだ風雲に際会せぬ英雄・豪傑などをいう（広辞苑）

この塔は佐伯市市福所いちがせの小高い杉林にある。総高二mという巨大な五輪塔である。付近には「寺屋敷」とか、「塔のもと」とか寺院に關係する地名が多い。この塔の外に三十数基の大小の五輪塔・宝篋印塔があり、中には「建武」の年号が読めるものもある。

富来隆氏は『佐伯史談』一二九号の論文で「佐伯は基を祀ったことではないのか」と言っておられるが、果たして誰を祀ったものか、謎に包まれた塔である。